



**MORIOKA**  
ROTARY CLUB WEEKLY

第21回例会(11月29日)  
平成25年12月6日発行

クラブ事務所 岩手県盛岡市菜園1丁目10  
川徳デパート内  
例 会 場 同上 TEL(651)1111(代)  
FAX(653)5622  
例 会 日 毎週全曜日12時30分～

会 長 平井 滋  
幹 事 平野 佳則  
会 報 金子 眞也  
クラブ直通電話 TEL(653)5682

Engage Rotary. Change Lives. "ロータリーを実践しみんなに豊かな人生を"…… Ron D. Burton

## 会員卓話

### 「皇大神宮遷御の儀に参列して」



櫻山神社 宮司  
坂本 広行 君

第62回神宮式年遷宮の「遷御の儀」が皇大神宮（内宮）で10月2日に執り行われ、天皇陛下より差遣された手塚掌典長、黒田清子臨時神宮祭主、鷹司神宮大宮司以下百数十人に及ぶ祭員らが奉仕しておりました。また数日前より様々な諸祭儀も執り行われたといえます。

正宮から新宮へと神儀を遷し奉る遷御の儀は10月2日夕方より、浄閣のなかで厳粛に執り行われ、皇族代表として秋篠宮殿下が参列され、安倍晋三内閣総理大臣などの参列員や約3千人の関係者らが奉拝いたしました。現職首相の参列は昭和4年の第58回の遷御の儀に参列した浜口雄幸首相以来で戦後初めてのことです。

私は20年に一度のめぐり合わせと申しますか、なにか言い表せないのではありませんが、感謝することのみでありました。皇大神宮正宮板垣南御門内東側での参列となりました。石段を登り切り、正面賽銭箱右手に仮に作られました建物に参列です。

そろそろ手水という頃、一時警備員、警察官、神宮職員が慌ただしくなりました。一斉に走り出して何事かあったのではないかと思います。10数分後、一人の男性が手錠をかけられ数人の警察官に抱えられ連れ出されていきました。見るからに不審な様子でビニール袋には何かが

入っており平然とした態度であり、言葉は一切発しませんでした。ふてぶてしい態度は日本人ではないかとも思いましたが一切報道はされませんでした。

午後5時20分に手水を済ませ、午後5時40分に修祓を受けて、その後に整列、参進いたしました。私はなぜか参列だけなのに奉仕するときのような緊張感をもちました。先頭には安倍内閣総理大臣、皇族、国会議員、特別奉賛者、遷宮関係者、神社関係者参列員と続きます。安倍総理は緊張した面持ちでゆっくりと進まれておりました。私は遠慮をし、後列にいましたが、歩みが早く、多くの人を追い抜いてしまい、前列付近まで進んでしまい、その夜の報道ステーションの番組とNHKのニュースに参道を歩いているところが映されていたそうです。

午後6時に正宮板垣南御門内東側に着座いたしました。私は371番参列員でありましたので、約400人ではないかと思えます。その後皇族御代表の秋篠宮殿下が着座いたしました。その他に特別奉拝者が約3千人神域の仮建物に着座しておりました。

もうその頃には神域は闇につつまれて、殿下の玉砂利を進まれる音だけが響いておりその音はさやかな浄めにも感じる音であり、これから

遷御が行われるのだなとあらためて感じる音でもありました。

勅使、祭主・大宮司以下祭員が参道を進み、御垣内参入まで静かに参列しておりました。時折神宮の森を通りながらそして御正宮から吹き渡る風。虫の音、こおろぎの音、鈴虫の声。遠くから聞こえる野生の鹿の鳴き声と雉の鳴き声、特に雉の鳴き声は出御するまで三度鳴いておりました。また時折どこからかはわかりませんがかすかな音がいたします。作為的でもなく人為的でもなく自然界から起こり伝わってくるような音がしました。不思議な感覚を覚える音です。感動いたしました。浄闇とは正にこのことであるとはじめてわかりました。この場に座っているだけで浄められているのだと実感いたしました。

遠くの方から、玉砂利を踏み進む音が聞こえてきます。かすかな音が次第に大きくなり、その気配に儀式が愈々はじまるのだなと参列者皆の緊張感が伝わり、私も着座し直しました。辺りは闇に包まれておりますので、多くの人の気配だけを感じておりました。儀式が行われているその気配といいますか、作法や所作を感じるという方が宜しいかと思えます。

時間の経過もその荘厳な雰囲気を感じると申しますか、言葉では言い表せませんが、時間が一瞬止まり、また時間といいますか時が動き出すという感覚になりました。参列席の遥か横の明かりが静かに消されました。後から聞かされましたが、全ての灯りが消されたのは午後8時前とのことです。参列してから2時間、手水を終えてから2時間半の時間が経過していたのだと思えました。かすかな明かりが消された後、何とも言えない静寂さに包まれ、五十鈴川のせせらぎの音がかすかに聞こえ、虫の音がすずやかに響き、吹き渡る風が木々の梢を微かに揺らす音もさやかでありました。当日は蒸し暑く感じておりましたので、爽快さを体を感じつつそ

の時を待ちました。

しばし静かなる時が続き、遠くから「カケコー、カケコー、カケコー」と鶏鳴三声が唱えられました。天岩戸開きの故事に倣ったことといわれます。参列者にとりましては突然の鶏鳴ではありましたが、誰一人驚きをみせた人はなく、愈々「出御」であると緊張し背筋を伸ばし少し昂揚した雰囲気となりその時を静かに待ちました。これも後から聞きましたが、定刻通り8時に大宮司・禰宜の奉戴する神儀が純白の絹垣（きんがい）に固まれて正宮を出御なされたといえます。参列者（員）はけいひつと雅楽、道楽を奏しながらの音と気配を感じるのみではありませんし、なにも見ることは叶わない闇に包まれておりましたが、その時、天空からではなく、絹垣から吹き抜ける風を受け御神威を感じざるをえませんでした。また奉拝席に参列した人からは、時折、かすかな灯りによって純白の絹垣がうっすらと浮かび上がる様子が窺へ、神儀が奉拝席の前を通る際には、奉拝者の頭上の杉木立のなかを一陣の風が一瞬だけ吹き抜け、周囲は荘厳な雰囲気に包まれたといえます。

けいひつの声、道楽の雅楽が次第に近づき、そして次第に遠くになり、また辺りはもとの静寂となり、浄闇のなか、暫く待ち続け、微かな灯りが灯りはじめました。新宮にお移りになった、ご無事に入御なされたのだと確信と安堵するような灯りでありました。その後私どもは新宮の仮参列所に移り、勅使・祭主・大宮司以下祭員の八度拝を行う起座と拍手（かしわで）のさやかな音を伺いながらその間深く頭をさげておりました。それぞれ退下後に私どもも退出いたしました。私事ではありますが、参列した方々は退出時に神宮に改めて向き直し二礼二拍手一礼の作法で拝礼後石段をおりましたが、私はあまりにもありがたく、また八度拝時に拝礼していますので、深く一礼をして石段をおりました。言葉に尽くせない有難さを胸に

抱かせていただきました。

参道を帰り進む中、荒祭宮を大宮司に合わせ遥拝後、宇治橋の鳥居を渡りました。午後9時40分頃と時間は経過しておりました。

内宮ではその日午後1時より一般の参拝は停止しておりました。3日早朝に参拝する人々が宇治橋鳥居前近くで待っておりました。100名は超えていたと思います。人は次第に増えていったといいます。午前5時よりの参拝には約千人が順番に宇治橋を渡り神域に歩みを進め参拝したといいます。

陛下におかれましては「出御」時刻である午後8時に、皇居内の神嘉殿内庭にて「遥拝の儀」を執り行われたといいます。天皇陛下には黄檳染御袍をお召しになり、剣璽を捧持した侍従を従えて出御。庭りょうの焚かれた神嘉殿南庭にとくに設けられた御座に進まれ、「庭下下御（ていじょうげぎょ）」最も鄭重な作法で遷御の儀を遥拝遊ばされたといいます。同儀式には皇族代表として常陸宮殿下、宮内庁長官、式部官庁が参列しました。当日は、皇后陛下には御所で、皇太子・同妃両殿下には東宮御所でそれぞれ遥拝になられたといいます。

翌日は午前10時より皇大神宮奉幣の儀に参列してまいりました。天皇陛下より奉られる幣帛を奉納する儀式です。当日も天候に恵まれ、昨日のような蒸し暑さはなく、すがすがしい初秋の空が広がる中執り行われました。

午前9時に昨日と同じ場所で受付を終えて手水を済ませ修祓を受けて参進いたしました。昨日同様に皇族代表の秋篠宮殿下が新宮へと参進いたしました。昨日は夕刻からの儀式であり、まったくの浄闇の中でありましたが、はっきり申せば、何も見えない、感ずるだけでありましたが、奉幣の儀は爽やかな晴天のもとでお執り行われ、秋篠宮殿下、池田祭主、大宮司以下祭

員も覗うことができました。遷御の儀の典儀（説明司会）はほとんどありませんでしたが、奉幣の儀は少しの説明典儀がありましたが、一般の神社儀式とは全く違いますので戸惑いながらの参列でありましたが、天候に恵まれましたので勅使・祭主・大宮司・祭員の儀式作法を伺うことができました。秋篠宮は気品と泰然とした雰囲気さがさりげないなあと感じておりましたところ、昨日とは違い、勅使・祭主・大宮司・祭員が参進してまいりました。勅使が祭文を奏上いたしますが、微音といい神様に聞こえる声でありますので、私どもには聞こえません。その後幣帛奉納の儀が終わり、八度拜に合わせ深く拝礼し、退出いたしました。本日も昨年と同じ気持ちであり、私は拝礼のみをして石段をおりました。昨年と同じように荒祭宮を遥拝し、その後直会が行われました。私の席からは唐櫃が置かれその前に着座している祭員が目に入りました。ずーっと座ったままです。私には耐えられないと思っておりました。唐櫃には御鍵が納められておりました。御鍵の役であり、儀式後半まで微動だにしない（数回横をむいたりしましたが）、ほとんど動きがなく、役目の時立ちました。感心しました。私は務まらないとも思いました。また、石原伸晃大臣が興味深く神宮職員に質問しておる姿勢が忘れられません。深く感銘を受けたのだらうと思えました。

20年間この時のために様々な儀式が行われ、また次の遷宮へ、その次へと、日本人・日本民族、神ながらの道の原点を感じざるをえませんでした。

感動と感謝この言葉しか今でも浮かんでは来ません。終わりではなく始まりでもある遷宮。次の遷宮に私が伝えていかなければならないことでもあり、その役目の重さを感じております。

仙台支部だより

「第3回 仙台支部会合」念願の盛岡で開催！

昨年10月末の仙台支部設立から1年が経過しましたが、念願叶って、設立1周年の記念も兼ね、11月1日、盛岡・つなぎ温泉で第3回目の会合を開催することができました。

この盛岡開催をある意味で後押ししてくれたのが、8月9日に発災した「つなぎ温泉周辺地域」を襲った未曾有の集中豪雨で、日本を代表する旅館の集まりである旧国際観光旅館連盟会長を直前まで歴任されていた佐藤様の「南部湯守の宿・ホテル大観」が大きな被害を受けたことでした。

当仙台支部のメンバーにも、今でも佐藤様と深い付き合いの方もおられ、「微力だが、ホテル大観・佐藤様をみんなで激励しよう」の意見で一致し、話はトントンと進み、設立1周年も記念しての開催となりました。

当日は、平井会長様を始め多くの本家の皆様にも参加していただき、昔の恋人にでも会ったかのように懐かしさと嬉しさで想い出話は大いに弾み、さらに平井会長様から差し入れていただいた秘蔵酒「七福神」でさらに雰囲気は盛り上がり、時間だけがアツという間に過ぎていきました。

一方、心配していたホテル大観へのお客様の入

りも、心配無用でした。家族連れなどで従前通り多くのお客様で賑わっており、激励に訪れたはずなのに逆に我々が接待を受けてしまい、迷惑をかけてしまったと恐縮しております。今回の会合は、天候にも恵まれ、露天風呂から雄大な岩手山を眺めながら、啄木同様「ふるさとの山に向ひて言ふことなし ふるさとの山はありがたきかな」を口ずさみながら、久しぶりに故郷に帰って来たリラックスした気分となり、普段の様々な垢も落とすことができた充実した一日となりました。

なお、話があまりにも盛り上がり過ぎたため、肝心の記念写真の撮影をすっかり忘れてしまい、参加者の皆様、本当に申し訳ございません。

楽しかった様子は皆様の脳裏に焼き付いていると思いますので、それでお許し下さい。

<参加された方々>

【盛岡 RC 会員】 平井滋会長・平野佳則幹事  
藤村文昭直前会長・佐藤義正・長野隆行  
民部田義男（会友）

【仙台支部】 椎井一意・涌沢光春・風間忠男  
木村敬一・後藤道也・小松敬一

（文責 小松敬一）

例 会 報 告

第21回例会  
平成25年11月29日(金)

- 於 川徳 12時30分 開会点鐘
- ・司会 平井 滋会長
- ・ソング それでこそロータリー
- ・会長報告 平井 滋会長
- ・幹事報告 平野佳則幹事

【他クラブ例会変更のお知らせ】

- 盛岡北R.C.=12月11日(水)は、クリスマス家族会開催のため18:00～ 時間変更。
- 盛岡西R.C.=12月19日(木)は、年忘れ家族会のため18:00～ 時間

- 変更。
- 盛岡南R.C.=12月17日(火)は、クリスマス家族会のため18:30～時間変更。12月24日(火)は、特別休会。
- 盛岡東R.C.=12月16日(月)は、クリスマス家族会のため15日(日)18:00～日時変更。
- 盛岡滝ノ沢R.C.=12月19日(木)は、クリスマス家族会のため19:00～時間変更。

【ニコニコBOX】

- ◆飯塚 肇君…私の所属するNPOいわて子育てネットの取材をしていただいたNHK盛岡放送局に御礼申し上げます。放送日に関して早とちりしてご案内してしまい、皆様にご迷惑をおかけしましたこ

とをお詫びして、ニコニコします。  
◆藤村文昭君…本日、年次報告書をお配りしました。6月に年度を終えてから、5ヶ月とたいへん遅くなりましたが、この発行時期につきましてはだいたい平均のようであり、佐藤重昭幹事の力作です。どうぞお目通しをいただければと思います。年間出席率は、なんと82%、平均年齢につきましては会員の増強効果で、だいぶ下がっております。1年間、誠にありがとうございました。

- メークアップ  
IM=千葉・熊谷(祐)・西田君。  
盛岡西R.C.=江口・星・中山・佐藤(重)君。クラブ委員会=藤村(文)・加藤・菊池君。

出席報告 □ 会員数 / 67 名 □ 出席数 / 40 名 □ 出席率 / 62.5% □ 前々回修正出席率 / 87%

- ・12月13日(金) 年次総会
- プログラムの 新入会員卓話 檜崎憲二会員
- お知らせ 「取材むかしばなし」
- 20日(金) 年忘れ家族会

- 本号編集担当 / 加藤 正幸
- 次号編集担当 / 金子 眞也

※訂正とお詫び…第21回(11月29日)例会号において、会員卓話者の氏名を誤って記載してしまいました。坂本様並びに会員の皆様へ深くお詫び申し上げます。なお、訂正・再印刷した会報を本日改めて配布いたしますので、前号との差し替えをよろしくお願いいたします。